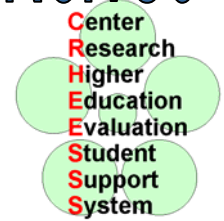


週刊センターニュース

No.186



第186号(2007年12月10日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 第168回共同学習会のご案内 ○●○

日時: 平成19年12月13日(木) 16:30-18:00

会場: 金沢大学角間キャンパス総合教育棟2階大会議室

テーマ: 授業評価アンケートをどう活用するか-FD研究・実践開発シリーズ第5回-

発表者: 堀井 祐介(大学教育開発・支援センター)

趣旨: 現在、授業を実施している各部局において、具体的名称は若干異なるが「授業評価アンケート(学生アンケート)」が実施されている。しかし、学生へのフィードバックを含めた活用方法は部局によって異なっている。本共同学習会では、それぞれの部局での活動および他大学でのアンケート活用事例を紹介しながら、今後、金沢大学での「授業評価アンケート(学生アンケート)」のより有効な活用方法について議論したい。

「FD開発・実践開発シリーズ」について

当センターでは、平成20年度からのFD義務化に備え、FD開発・実践開発シリーズとして共同学習会を開催しております。FDって何? 何のために? という素朴な議論にも具体的に答えるシリーズです。是非ご参加ください。また、ご希望のテーマがありましたら、遠慮なく、お申し出ください。可能な限り、ご希望に即した企画を試みます。

○●○ 第5回高大連携教育フォーラム参加報告 ○●○

12月7日(金)にキャンパスプラザ京都で開催された標記フォーラムに参加した。このフォーラムは、大学コンソーシアム京都を母体とする京都高大連携研究協議会が主催するものであり、「学生が高校教育から大学教育へ円滑に移行できるよう、両者の教育上の連携を拡大する」という「接続教育」の視点から開催されているものであり今年で5回目とある。今回のテーマは「高大連携のあり方を検証する」となっており、特に量的に一番拡大している「大学教員による出張講義」に焦点があてられていた。まず、京都工芸繊維大学の内村准教授が基調講演で、「高校までの「入試問題に必要な学び(teaching)」と大学での「現実世界に必要な学び(learning)」にはギャップがあり、高大連携はこのギャップを埋めることを共通の目標とするものでなければならない。そのためには、双方のカリキュラムの見直しを含めた「草の根高大連携」(教員中心、双方向性、対等の立場、自主的活動)が重要である」と述べられた。この点は、引き続き行われたシンポジウムでも議論がなされ、「高校、大学、それぞれの担当窓口の問題(進路指導部、広報入試課等だけが窓口でいいのか、専門の担当者を育成する必要性)」、「高校、大学の年間スケジュールの違いをどうすりあわせるのか」、「大学の教員が高校で授業を行うだけでなく、大学の教員が高校の授業を見ることにより双方の教員が共通の土俵で連携することが重要」などの意見が出た。立命館大学、近畿大学などでは、高大連携を専門に扱う高大連携課(または推進室)を設置しているとの報告もあった。

シンポジウム後の分科会では、第6分科会「入学者選抜における高大連携の可能性～高大接続から見たAO入試の期待される役割～」に参加した。はじめに東北大学の倉元准教授が、「高大連携は学生の「狩猟」ではなく、「収穫」でなければならない、すなわち、高大連携には高校教育強化の視点が必要で、その結果、いい学生の入学につながるため大学にとってもメリットがある」と述べられた。また、「AO入試が「勉強しなくても入れる」点を促進してしまうことは、高校教育の崩壊、大学教育

の崩壊につながる」という懸念も示された。続いて、大阪府立清水谷高校の富森校長から、AO入試は、生徒の可能性を幅広く評価するという点では望ましい制度であるとの上で、主として以下の3点についてのコメントを述べられた。

- AO入試の実施時期
 - 早いところで夏前に実施されるが、調査書は2年次までになってしまう、年内に合格が決まることで、生徒の授業への態度が変化し、伸びるべき学力が伸びない。
- AO入試の可否判断基準
 - アドミッションポリシーにかかれていることは非常に曖昧で担任が何を指導すればいいのかわからない。これを透明にすることが大学と高校現場の信頼関係につながる。
- 入学前教育について
 - AOで合格が決まった生徒にも高校として授業を中心とした教育は行っているの、勝手な入学前教育として課題を出されると生徒へ過剰な負担となりうる。事前に高校側に相談してほしい。

高校（高校生および高校教諭）と大学の接点は、オープンキャンパス、大学見学会、出張講義、進学説明会など多岐にわたり、点から線への展開となってきている。これが入学者選抜方法の検討まで含めた面へと拡がる過程にAO入試が関わってくる。金沢大学では、現在それらについての窓口は入試課学生募集室となっているが、本フォーラムに参加して、今後、面的かつ継続的な活動の実践を担うには、中期計画にも記載されているアドミッションセンターの設置および担当スタッフ（専任教員を含む）の増員が必要になるという感じを受けた。（文責：教育支援システム研究部門 堀井祐介）

○●○ シラバス記述に関する改善提案－「2007年度学習環境改善のための

学生アンケート回答」に基づく教育改善提案：その1－ ○●○

教育企画会議学生生活部会では、本年10月23日～11月12日、アカンサスポータルを用いて、1年生・2年生対象の「学習環境改善のためのアンケート」を実施しました。全体の集計分析はまだですが、現時点で、直ちに授業改善につながる資料として示すことにします。第一回は、シラバス作成の時期であることから、シラバスに関するアンケート結果とそれに基づく改善の提案です。

シラバスについて満足しているかとの問いに、「はい」と答えた学生は1年197名、2年76名、「いいえ」と答えた学生は1年92名、2年28名でした。改善提案も記してもらいました。「教員間で書き方に統一が無い」「空欄をなくしてほしい」「具体的な評価方法の記述が無い」など組織として改善すべき点もありますが、個々の教員がシラバスに書き込むにあたっての工夫可能な事項を以下に示します。

- ①「昨年実際にとった人数」。共通教育科目を念頭に置いた回答と思われ、適正人数による調整の結果を、科目選択の参考に使いたいと考えているようです。
- ②「前年度どのような評価結果になったのか」「例年不可になっている人数」。④の難易度とも関係しますが、学生が気にしている事項であることに間違いありません。
- ③「試験の実施時期」。中間試験などの場合に、何週目くらいに実施という記述を求めていると想像します。
- ④「授業の難易度」。必修科目でなければ、例えば、「センター入試受験用に世界史を学んでこなかった学生には難しい」などの具体的な記述があってもいいと考えます。

また、前年度の当該科目における、学生による授業アンケート（評価）の結果を一部だけでも引用する、あるいは改善予定の点などを示すことも、学生にとって科目選択に役立つ事前情報となります。

以上の点を、シラバス作成にあたり参考にさせていただければ幸いです。

なお、「印刷したシラバスが望ましい」との要望については、共通教育科目について冊子版シラバスの印刷部数を増やし、図書館への配備数増、学生寮や金大生協等への配備によって対応する予定です。（文責：教育支援システム研究部門 青野 透）